

第19回 コムズフェスティバル 市民企画分科会 実施報告書

グループ名 女性と防災の会
開催日時 2018年1月27日 13:00~16:00
テーマ 「災害時の困りごと ～こんなとき どうしたら～」
トイレやケガ、災害時に困るあれこれ
身近な物で代用品を作り、不自由を改善してみよう
講師 小池 洋恵さん 防災士 熊本市市議会議員
参加人数 合計 29 名 (女性 23 名, 男性 6 名)
実行委員数 合計 7 名 (女性 7 名, 男性 0 名)

〈内容〉

大災害が起こればライフラインや物流が止まり、最低でも7日間は自助・共助で難局を乗り越えなければならない。そのためには人々の知恵と工夫が不可欠。その場にあるモノで避難者のケガや不自由を改善できるよう、知恵を出し合いながら実際に作ってみるという企画。後半は、2016年に発生した熊本地震について、自身も被災しながら避難所運営を経験した小池防災士の貴重な体験をお聞きいただく。

〈前半〉限られた材料で代用品づくり (1グループ男女混合6人 作業は40分)

各グループに配布している5枚のカードの問題解決に取り組む。代用品を作る一方、併せて考えておかなければならないことについても触れる。

- ・各グループ共通の代用品づくり：洋式トイレ、おむつ
- ・その他の代用品づくり：ケガの手当、マスク、子守り、椅子、食物アレルギー、明かり、オムツかぶれ、子どものおもちゃ、消臭スプレーなど



話し合う参加者たち

参加者同士が話し合い、限られた材料をフルに活用し代用品づくりに励んだ。共通の課題のひとつがトイレ作り。既存の和式トイレを洋式にする設置型、バケツ+段ボールの組合せ型など5種類の個性的なトイレが完成した。代用品の発表では、エプロンで赤ちゃん抱っこ、ストッキングを使ったユニークなおもちゃは参加者の関心を集めた。また、災害は冬場とは限らないことから、あえて夏の災害をイメージしてもらい“におい”に着目した自衛策の提案も行った。

〈後半〉 小池 洋恵防災士 講話

熊本地震の避難所運営の講話の前に2011年3月発生した町内の事件から、「加害・被害者を生まない環境づくり」の防犯活動参加の動機や、自身の事故体験から話は始まった。



熊本弁で熱く語る講師

2016年4月14日 前震直後「焦らない」と自分に言い聞かせ、青パトで巡回しながら、呆然と立ち尽くす人々に「避難所は小学校」と落ち着いた声で呼びかけながら避難誘導。小学校校長と防犯副会長と一緒に避難所を開設。避難所はさながら運動会の場所取りのようで、日ごろ接したことの

ない人々が押し寄せ、防災のスキルのない見知らぬ人が運営を仕切るという現実、自分の役割を選択することに直面したと語った。避難所は全ての人々が生活弱者となり、声をあげられない人がいるので、耳を傾ける心と、福祉の心をもった運営が大切。災害時は特定の人々が頑張るのではなく、皆で乗り越えていくものと語られた。災害が発生するとそこは無法地帯。災害における防犯体制と仕組みが抜け落ちていると指摘した。

講師の熱を帯びた熊本弁が現場の緊張感と気迫を感じさせ、参加者は内容を漏らすまいと聴き入った。

〈まとめ〉

避難所運営ゲーム（HUG）の問題解決の手段として企画した代用品づくり。参加者の数だけ代用品が生まれ、暮らしの視点を持つ女性たちがリーダーシップを発揮する会となった。講師からは参加者同士が知恵を出し話し合い、男女が共に作業することに大きな意味があるとの講評があり、ねらいは達成できたものとする。

一方、講師の貴重な体験講話は、60分ではとても足りないものであったため、全体の時間配分は反省点だ。

今後も、参加者が分科会で体験したことを地域で活かせるような内容を企画できればと考えている。

〈参加者の声〉 ○全体の感想 ◇講話の感想

- 用品を自分たちで作ることは、これからの参考になります。
- 女性の多い会でしたので、とても良かった！さまざまな気づきがいっぱい。
- トイレの作り方は、知らなかった！！
- いつも実践があるのが、非常に大切なことだと思っています。
- 「におい」新しい発見でした。気づきをありがとうございます。
- 自分達で体験する、話し合う事の大切さ。
- 気になっていた災害時のトイレ問題にヒントを沢山頂きました。活用考えたいと思います。
- ◇実際のことなので、非常に分かりやすく、もっと聞きたかったです。
- ◇避難所の実態の話に、生やさしいものではない・・・きれいごとではないと思った。
- ◇急ぎ足でしたが、何が大切なのか、よく伝わりました。「災害は日常の延長にある」忘れないでいようと思います。
- ◇とても勉強になりました。防災と防犯のお話、新しい発見でした。一人でがんばりすぎないでみんなでのりこえることが大切だと思いました。
- ◇盛り沢山の情報話なので頭に入り切れませんでした。
- ◇現場経験からくることば、活動の重みに考えさせられることばかり。
- ◇女性のためのお話をもっとききたかったです。



ポリ袋をかぶって実演する参加者



エプロンで赤ちゃんを抱っこ



工夫した点を説明する参加者